

【報告】

川崎操：一橋大学附属図書館伝説の事務長

大場高志（一橋大学総務部総務課）

1. はじめに

一橋大学学園史資料室は、国立キャンパス図書館時計棟2階の534番研究室にあり、約一万件の一橋大学学園史に関する資料を収集し、保管している。その中には、「一橋大学年譜Ⅰ」（一橋大学、1971）の原稿となった事項カード5箱や、「(草稿) 商法講習所の創設と其の周囲～蔭の人々～」(昭和46(1971)年6月稿)など、学園史資料室の礎を築いた川崎操氏の収集した史料や作成資料が多数含まれている。この川崎操という人物については、筆者には面識はないが、昭和51(1976)年に一橋大学に就職して以来、「一橋大学附属図書館史」（一橋大学、1975）の第一篇「図書館沿革概説稿」を書いた人、『書物の周囲』（くにたち本の会、1934-1936）を発行した人など、その仕事ぶりを諸先輩方から幾度も聞かされていた私にとっては伝説の事務長であった。

そのうち昨年(2012年)7月、『図書館雑誌』に青野伊予児氏の書いた「故川崎操氏追悼」という記事¹を見つけ、その中にご遺族の住所が記されているのを発見した。その住所は小平という近所でもあり、実際に行ってみると、いまだなお玄関に「川崎操」の表札がかかっていた。そこで、早速ご遺族に書簡を送り、川崎操氏の遺品の状況などをお尋ねしたところ、ご子息の川崎嘉昭氏からご返事があり、段ボール2箱と紙袋1個分のご遺品を譲り受けることができた。文末の表3に、これら川崎操氏の遺品類を学園史資料室所蔵「川崎操文書」として整理したものを掲げておく。

2. 川崎操の略歴と大学就職までのこと

表1は前述した青野伊予児氏の「故川崎操氏追悼」中にある「川崎操略歴」をもとに、今回寄贈された「川崎操文書」中にある川崎操氏自身が作成した「川崎略歴控」(Km-C:14-2; “Km-”は「川崎操文書」の請求記号、以下同じ。)と「功績調書」(Km-C:15-1)により、修正、補記を加えて作成したものである。

同じく「川崎操文書」中にある「一橋生活愚伝録」(Km-C:1)によると、川崎操の父親は「大蔵省専売局の役人をしていて」、幼少期には瀬戸内海地域を何度か転勤したようであ

る。「親父は官吏をやめてから自分で新聞を発行したり、社会教育の方へ首を突込んだり、其の機関誌を出したり、俳句の会を作って人を集めたり、一時に二足も三足もの草鞋をはいて動き回っていた」という。その影響から「中学時代に…丁度文部省図書館^マ教習所が出来て、親父の所へ送られて来る「文部省内社会教育研究会編の社会と教化（後に社会教育と改題）」という雑誌に学生募集広告が出ていた」ので、これに応募した。

川崎操は大正11（1922）年3月香川県立丸亀中学校を卒業後、上京して長兄の下宿していた湯島天神前の柳館という下宿屋に住居を定め、文部省図書館員教習所に第2期生として入所した。その教習所で、講師をしていた太田為三郎（1864-1936）に出会い、師事し、教習所終了後、勧められて太田為三郎が図書館幹事代理（在職：1921年7月～1928年3月）をしていた東京商科大学に就職したようである。「川崎操文書」中の「川崎関係諸写真」（Km-A:4）には、太田為三郎の大判写真が「太田為三郎先生」と敬意を込めたタイトルをつけて貼り付けられている。また、「川崎操文書」中には「太田為三郎先生著作目録と関係文献」（Km-E:1-1）と題された原稿が、稲村徹元からの書簡や太田為三郎の履歴書、太田為三郎が書いたと思われる「当館目録編成ト同時ニ書庫内ヲ整頓スヘキ理由」とともにあり、太田為三郎の業績について何らかの準備をしていたことがうかがわれる。

なお、太田為三郎の図書館幹事代理については、「（当時図書館幹事であった）三浦新七博士が…大正九年東京商科大学となつてからは、図書館を専門家によって大学図書館らしく十分に機能が發揮できるよう整備する必要を痛感せられ、大正十年に当時わが国図書館界で最も優れた図書館学者であり図書館経営者であった太田為三郎氏を招聘、幹事の職を託されて、自らはもっぱら背後にあつて応援をしておられた。」²と書いている。

表1 川崎操略歴

明治37年2月19日	岡山県苫田郡鏡野町に生まれる
大正6年4月	香川県立丸亀中学校入学(大正11年3月卒業)
大正11年5月	文部省図書館員教習所に第2期生として入所(大正12年3月終了)
大正12年3月	恩師太田為三郎氏の勧めにより同氏の勤務せる東京商科大学図書館に就職(東京商科大学雇)
大正12年4月	日本大学専門部社会科入学(大正13年4月日本大学高等師範部修身法制経済科入学)(昭和3年3月卒業)
昭和2年12月	東京商科大学司書
昭和8年	「くにたち本の会」を結成、同9年『書物の周囲』を発行(以後第3年第1/2号(昭和11年12月)まで発行)
昭和13年10月	「東京商科大学六十六教授文献集覧」警眼社を編集、発行
昭和16年4月	「国土計画に関する文献目録」農村工業第8巻4号を編集、以後調査を第1輯(昭和16)～第3輯(昭和18)として発表
昭和20年7月	叙勲八等瑞宝章

昭和21年7月	官吏任用叙級令公布に依り文部事務官
昭和23年	日本図書館協会大学高専図書館部会世話人を委嘱され、以後部会中央委員
昭和24年1月	一橋大学附属図書館総務係長兼和漢書目録係長
昭和24年3月	二級事務官に陞叙
昭和24年7月	一橋大学附属図書館小平分館事務長兼本館総務係長
昭和25年8月	一橋大学附属図書館事務長。文部省学術奨励審議会(学術用語分科審議会)専門委員
昭和26年	全国図書館大会大学図書館部会において、国立大学図書館の全国的な組織の確立を目的とし、全国国立大学図書館協議会の名称の下に協議会結成準備の世話役となる
昭和29年	第1次全国国立大学図書館長会議(国立大学図書館協議会の前身)が開催され、一橋大学図書館は幹事館となる。以後会議の発展のため努力
昭和39年	国立大学図書館長会議内に「司書職制度に関する特別委員会」が設置され、委員となる。以後昭和41年3月の退職の時点まで活躍
昭和41年3月	一橋大学を退職(62歳) 同年一橋大学後援会職員として一橋大学学園史の資料収集と整理にあたる
昭和50年	「一橋大学図書館史」図書館沿革概説稿を執筆、続いて発行された「一橋大学年譜」Iの基礎資料を完成
昭和51年	一橋大学後援会を辞任
昭和52年2月26日	病気のため永眠享年74歳
昭和52年3月17日	正五位勲四等瑞宝章の叙勲通知

3. 川崎操の仕事と著作物

表2は、「川崎操文書」中の「読書索引」(Km-C:14)という市販の読書ノートに川崎自身が書きつけていた「備忘録」である。ほぼ川崎操自身による著作目録になっていると思われる。この「備忘録」をもとに、川崎操の行ってきた仕事を見ていきたい。

表2 備忘録

日附			摘 要	結 末		
年	月	日		年	月	日
大正	11	1	(平安時代ノ和歌ニ就テ)	山崎先生ニオクル		
	12	3	創作(名残)一篇ヲパピルスニオクル	(講習所二期同級会誌)		
	13	11	26 (大学図書館と大学教授)ヲ書イタ			
	13	12	1 (図書館管見)ヲ護国タイムスニ	四回ニ分ケケイサイサル		
	14	11	1 A Select list of Standard Books on Economies & Commerce	ノ編集ヲ終ル		
	15	1	4 熱海遊記ヲ書イタ			
	15	2	1 (労働問題解決策としての労働図書館設立を叫ぶ)が図書館研究第四巻、第三、四号にのる			
昭和	2	1	7 (ひとみ)一篇を書く	(文闘第二巻第一号)		
	9	1	出版法規より観たる徳川幕府政策の一端	(書物の周囲 創刊号)		
	9	7	原著対照本邦翻訳書目録(法・経・社)第1輯	(書物の周囲 第一巻第二号)		
	9	11	蔵書印か蔵書票か	(芸艸会 図書館研究第10巻太田先生記念書篋研幾編)		
	10	5	一ツ橋の今昔	(書物の周囲 第二巻第一号)		
	10	5	原著対照本邦翻訳書目録 第2輯	(書物の周囲 第二巻第一号)		
	10	7	蔵書票芸術	(美術往来 第2巻第8号)		
	10	12	其後の蔵書票二つ三つ	(芸艸会 図書館研究 第11巻第5号)		
	11	12	図書館に於ける電燈照明に就いて	(書物の周囲 第三巻 第一、二合併号)		
〃	〃		原著対照本邦翻訳書目録 第三輯	(書物の周囲 第三巻 第一、二合併号)		

12	4	書物の虫	(美術往来 第四巻第三号)
13	4-5	翻訳書原著者漢字名並原綴対照一覧(一)(二)	(東京古書籍商組合時報 4月号、5月号)
13	5-6	明治初年の翻訳書漢字著者名見方(一)、(二)、(三)	(日本読書新聞 第45、46、47号)
15	4	雑誌文庫への期待	(日本読書新聞 第117号)
16	1	頼長の文倉	(図書館雑誌 第35年第1号)
16	4	国土計画に関する文献目録(一)	(農林工業 第8巻第4号)
16	4-5	東京商大諸教授執筆文献 昭和16年度	(一橋新聞 4月10日、4月25日、5月25日号)
17	4	国土計画に関する文献目録(二)	(農林工業 第9巻第4号)
17	6	南方農業文献(上)(中)	(一橋新聞 6月10日、6月25日号)
17	10-11	最近の翻訳書原著対照目録、法、経、社 第5輯	(一橋新聞10月10日、11月10日、11月25日号)
18	4	国土計画に関する文献目録(三)	(農林工業 第10巻第4号)
17年至18年		吾輩は「本」である (一)至(五)	(文部省経理資料 第13巻第6号、第14巻第1号、第14巻第3号至第5号)
単行書		書架考、書架と湿気(芸艸会パンフレット第二冊) 菊版30頁、芸艸会発行、昭和8年7月	
		東京商科大学六十六教授文献集覧 菊版226頁、警眼社発行、昭和13年10月	
		南方文献目録(邦書篇) B6判140頁、東京商科大学東亜経済研究所発行、昭和18年6月	
		本邦著述家著作目録索引稿(明治以降社会科学関係者の部) B.5判71頁、一橋大学附属図書館、昭和40年9月	
23	4-5月	戦後の概観、東京商科大学図書館	(図書館雑誌 第42巻2号)
29	9 30	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内	(一橋新聞 No.530)
30	6	書架の変遷と近代書架	(図書館研究 復刊第2号)
31	1 20 9 2	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の二、其の三)	(一橋新聞 No.569,585)
31	12 10	小長谷恵吉著日本国見在書目録解説稿附同書目録、同書索引 同書再刊の編集を独自になす「同書中に」再刊に際して」の一文を載す	小宮山書店
32	5 30	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の四)	(一橋新聞 No.602)
32	9	芸艸会雑誌・図書館研究掲載論文目録～と当時の若干の回想から	(図書館職員養成所図書館学会図書館研究復刊第3号)
32	9 20	各種会社の社史案内～本年度採用申込の会社の中から	(一橋新聞 No.609)
33	2 10	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の五)	(一橋新聞 No.620)
33	9 10	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の六)	(一橋新聞 No.633)
34	4	EX・LIBRIS	(月刊 Books No.108)
34	4 15	超「緑下力持」	(図書館職員養成所ニュース No.5)
34	6	芸艸会雑誌・図書館研究掲載論文目録-補遺	(図書館研究 復刊第4号)
34	4 20 9 30	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の七の1・2)	(一橋新聞 No.649, No.650)
34	9	書架と私	(書架のしおり 第2集 日本ファイリングK.K.パンフレット No.5)
34	12	1959年の図書館界～国立大学図書館～	(図書館雑誌 Vol.53, No.12)
35	2 10	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の八)	(一橋新聞 No.671)
35	11 10 20	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の九 1, 2)	(一橋新聞 No.689,690)
36	3	図書館は前進したか～1960年図書館界の回顧～大学図書館	(図書館雑誌 Vol.55, No.3)
36	9	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の十 1,2)	(一橋新聞 No.709,710)
36	12	書架と私	(書架のしおり 第3集 日本ファイリングK.K.パンフレット No.8)
37	5 30	利用者に訴える 図書館生活三十五不快	(一橋新聞 No.723)
37	10 30 11 20	学生の図書館利用を分析する 上、下	(一橋新聞 No [729,731])
36	9	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の十一)	(一橋新聞 No.[731])
38	1 13	毎日新聞に(三蔵法師)の名によって小生の「学生の図書館利用を分析する」を利用して「図書館から遠かる傾向」掲載さる	
39	6 26	間宮翁のこと	(間宮不二雄の印象の内)前田哲人編発行
38	9 30	前年度より格段の増加 三七年度の図書館閲覧状況	(一橋新聞 No.745)
38	12 30	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の十二)	(一橋新聞 No.751)
39	10 20	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其の十三)	(一橋新聞 No.766)

40	3	15	川崎操さんと一橋図書館史	(一橋新聞 [No.773])
40	10 11 11 12	30 15 30 30	本のお守りで四十年 1至4	(一橋新聞 No. 784,785,786,788)
40	11	30	最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・文献目録案内(其十四)	(一橋新聞 No.786)
41	2	15	本のお守りで四十年 (五完)	(一橋新聞 [No.790])
41	3		「マーキュリー」校章使用の起源(橋畔随想)	(如水会会報 No.431)
41	9		一橋学園史資料調査室(ポケット辞典)	(如水会会報 No.437)
42	(1-2)		お願い「一橋雑誌 欠号分」貸与協力方をお願い	(如水会会報 No.441,442)
43	2		マーキュリー校章の起源について、如水会員名簿43-44年用掲載記事の訂正方の意見を出しておいたのが掲載さる	(如水会会報 No.454)
45	2		如水会員名簿、マーキュリー説明中のマーシャルがマリシャルの誤りであることを原綴で説明、訂正方を通知	
45	2		「商法講習所」を最初に紹介した新聞記事と、最初の生徒募集広告案	(如水会会報 No.480)
45	6		国立大学の悲劇	(図書館雑誌 Vol.64 No.6) (赤松四朗のペンネームで)
45	8		日本美術史・絵画史・関係文献略目録	(美術雑誌 萌春 第190号)
45	11		忘れられた最初のベルギー人お雇い教師	(如水会会報 No.487)
46	3		日本の土に眠る三人の外国人教師	(如水会会報 No.491)
48	6		商法講習所の創設と其の周囲～蔭の人々～	(草稿 未発表)
50	5		本学の創立記念日について(上記小生の草稿により増田四郎氏が記念日変更の記事を一橋ニュースに掲載)	
50	10	30	一橋大学附属図書館史(図書館沿革概説稿 101頁 図版7頁、本のお守りで四十年 15頁、図書館年表(昭和41年3月迄分)7頁)	一橋大学
51	3	31	一橋大学年譜 I (明治8年8月至昭和21年3月)206頁	一橋大学

3.1. 目録索引作成

大正14(1925)年11月1日に「A Select list of Standard Books on Economics & Commerce ノ編集ヲ終ル」とあるが、このlist(附属図書館所蔵:BAa-31)には太田為三郎が「緒言」を書いている。また、昭和2(1927)年から東京商科大学附属図書館は“The Library Monthly bulletin of the Tokyo University of Commerce”(のち「東京商科大学図書館月報」)の刊行を開始している。これら附属図書館の収集資料の目録及び特殊文庫の目録は図書館の日常業務として行われていたものであるが、太田為三郎や彼と帝国図書館や台湾総督府図書館時代から行動を共にし、「メンガー文庫」や「ギールケ文庫」の冊子体目録作成に尽力した小長谷恵吉³などの指導を受け、これら冊子体目録の刊行を精力的に行ったと思われる。前述の「功績調書」では「一橋大学に所蔵する特殊文庫並一般蔵書は、其の内容に於て数量において国内及国外に誇り得るものであるが、其の特殊文庫冊子目録及特殊文献冊子目録、十余の作成には同人(川崎操のこと)在職中悉く関与し、研究者及図書館界に多大の便を与えている。」と述べている。

主要な目録索引類には「単行書」にあげられている「東京商科大学六十六教授文献集覧」や「南方文献目録(邦書篇)」、「本邦著述家著作目録索引稿(明治以降社会科学関係者の部)」などがあるが、戦後も学生への便益をはかるため「最近の邦文雑誌に掲載された各種書誌・

文献目録案内」を昭和 31（1956）年から昭和 40（1965）年の退職時まで『一橋新聞』に掲載し続けている。

また、蔵書の分類表についても検討を進め、東京商科大学の国立移転に伴って昭和 2（1927）年には専門部分室の新分類表を作成し、昭和 5（1930）年には附属図書館の新分類表を太田為三郎の後を引き継いだ鬼頭仁三郎と協力して作成している⁴。この時期に集められたと思われる他大学等の図書分類表が附属図書館に残っており、これらは学園史資料室の資料として整理、保管されている。

3.2. 書庫管理

川崎操は大正 12（1923）年 3 月に東京商科大学に就職しているが、その年の 9 月 1 日には関東大震災が起こっている。その後昭和 5（1930）年に国立キャンパスに新図書館が新築されるが、前述の図書分類表の作成とともに、新図書館のための書架の研究に没頭し、新図書館設計への意見をまとめたりしている。その研究経過や研究成果については、戦後の昭和 30（1955）年 6 月の「書架の変遷と近代書架」や昭和 34（1959）年 9 月の「書架と私」に詳しい。新図書館建設後も、昭和 8（1933）年 7 月に「書架考、書架と湿気」で書架の歴史と館内の温湿度の問題や昭和 11（1936）年 12 月に「図書館に於ける電燈照明に就いて」で館内の照明問題、昭和 12（1937）年 4 月には「書物の虫」で図書の害虫問題など図書館蔵書の環境問題に関する研究を進めている。

特に昭和 9（1934）年 11 月には「蔵書印か蔵書票か」を書き、図書館が所有する図書に蔵書印を押して図書を汚染するよりも、蔵書票を用いてはどうかと提議している。「川崎操文書」中には「蔵書印、蔵書票」（Km-B:3）と題されたスクラップノートがあり、『出版ニュース』と思われる雑誌に連載された国内、海外の「蔵書票・蔵書印」の図版が切り抜かれコレクションされている。その中には川崎操自身の自画、自刻、自擦による蔵書票 4 点も含まれている。その後も昭和 10（1935）年 7 月に「蔵書票芸術」、12 月に「其の後の蔵書票二つ三つ」、戦後の昭和 34（1959）年 4 月にも「EX・LIBRIS」を書き、一橋大学附属図書館所蔵の佐野文庫やシュンペーター文庫の蔵書票を紹介している。

また、終戦間際の昭和 20（1945）年に東京商科大学（当時は東京産業大学と名称変更していた。）附属図書館は激しさを増す米軍機空襲から逃れるため蔵書約 5 万冊を長野県伊那町に疎開した。終戦後、これらの疎開図書は速やかに一冊の不始末もなく大学に戻されてきたが、この間の多大な苦労については、昭和 40（1965）年の「本のお守りで四十年」に

詳しい。

3.3. 人材育成

昭和8(1933)年、川崎操は東京商科大学附属図書館の若手職員と共に「くにたち本の会」を結成し、昭和9(1934)年1月から昭和11(1936)年12月まで『書物の周囲』という雑誌を発行した。太田為三郎と行動をともにしてきた小長谷恵吉の唯一の公表物である「日本国見在書目録解説稿」を発行し、図書館業務への研究成果であるくにたち本の会編「東京商科大学附属図書館カード目録配列略則」などを発表した。川崎操自身は「出版法規より見たる徳川幕府政策の一端」や「一ツ橋の今昔」、「図書館に於ける電灯照明について」などの論考のほか、「原著対照本邦翻訳書目録」の文献目録を発表していた。

戦前には、文部省図書館員教習所の同窓会である芸艸会や日本図書館協会で活躍したと思われるが、戦後は、日本図書館協会の再建に協力、特に大学図書館部会(国公立大学)の創設を呼びかけ、同部会の中央委員を歴任し、昭和23(1948)年4/5月に「戦後の概観、東京商科大学図書館」、昭和34(1959)年12月に「1959年の図書館界～国立大学図書館～」、昭和36(1961)年3月に「図書館は前進したか～1960年図書館界の回顧～大学図書館」を書いている。

また、年譜にもあるように昭和25(1950)年には文部省学術奨励審議会(学術用語分科審議会)の専門委員を委嘱された。この審議会の成果は、昭和33(1958)年5月に文部省から「学術用語集：図書館学編」として公刊されている。

昭和26(1951)年には全国国立大学図書館協議会の結成準備世話役となり、昭和29(1954)年には第1次全国国立大学図書館長会議が開催されている。また、昭和39(1964)年には同じ一橋大学附属図書館の専門員(助手)であった岡崎義富とともに「司書職制度に関する特別委員会」の委員に委嘱され、以後退職まで活動をした。退職後は附属図書館事務長を引き継いだ阿曾福円が委員を引き継いだ。この特別委員会の成果は、昭和43(1968)年5月に全国国立大学図書館長会議編「大学図書館の業務分析」⁵として刊行され、その後も特別委員会は国立大学図書館協議会の「司書職制度調査研究班」と名称を改め、司書職制度確立のための活動を継続した。

このように、川崎操は退職するまで国立大学図書館の地位向上や司書職制度の確立に尽力したが、退職後の昭和45(1970)年6月に赤松四郎のペンネームで書かれた「国立大学の悲劇」を読むとこれらの努力がなかなか実を結ばないことに絶望していたようである。

3.4. 学園史

昭和 41 (1966) 年 3 月一橋大学を退職後、川崎操は昭和 50 (1975) 年の創立百周年に向けて一橋大学の百年史刊行のため設けられた一橋学園史資料調査室に一橋大学後援会職員として採用され、学園史調査の業務に従事し、商法講習所以来の一橋大学学園史に関わる多くの資料収集や忘れられた多くの研究者や出来事の研究探索を行い、『如水会会報』等に報告した。

特に昭和 48 (1973) 年 6 月には「商法講習所の創設と其の周囲～蔭の人々～」という一文を書き、その中で、一橋大学の創立記念日が 9 月 22 日 (旧東京商業学校及び旧東京外国語学校、同附属高等商業学校との合併開業の日) であることに疑問を持ち、商法講習所開設届の日である 9 月 24 日が創立記念日にふさわしい旨の考えを示した。この草稿を読んだ当時の増田四郎名誉教授は、検討の結果その考えが妥当であると判断し、昭和 50 (1975) 年 5 月号の『一橋大学ニュース』に記事を載せて理由を説明し、大学はこの年から創立記念日を変更した。

一橋大学創立百周年にあたる昭和 50 (1975) 年には「図書館沿革概説稿」を脱稿し、その年の 10 月に「一橋大学附属図書館史」が刊行された。また、カードケース 5 箱に書き溜めていた「一橋大学年譜 I」の基礎資料をまとめて、翌昭和 51 (1976) 年 3 月に発行するとともに、後援会職員を辞職した。ご子息嘉昭氏の話によると、このころ既に、癌に侵されており、約 1 年の闘病生活ののち、昭和 52 (1977) 年 2 月 26 日に逝去した。

4. おわりに

筆者は川崎操氏とは面識がないが、川崎操氏の部下であった清水末寿氏の部下であったことがある。清水氏は酒も煙草も川崎操氏のようによく嗜み、図書館協会の仕事も精力的に行い、川崎操の薫陶を深く受けていたようである。清水氏がよく言っていたことに「図書館の仕事はニートでなければならない。」という言葉がある。ニートとは「きちんとした」という意味である。学園史資料室に集められている資料や今回寄贈いただいた「川崎操文書」などを見ていると、一本筋の通った中に、整理保管の仕方が、実に「きちんとしている」という気がする。こうした振る舞いは、「日本随筆索引」(岩波書店, 1901) や「帝国地名辞典」(三省堂, 1912) という大著をものにし、台湾総督府図書館の創設 (1915 年) に尽力し、「図書整理法」(千葉県図書館, 1931.11) や「和漢図書目録法」(芸艸会, 1932.5) の中であくまで利用者本位の図書館経営を唱えた太田為三郎の教えであっただろうか。一橋大学

附属図書館の伝統とは何か、その源流はどこか。興味は尽きないが、川崎操がその巨大な貯水池であったことだけは確かである。

表3 「川崎操文書」リスト

請求番号	タイトル	対象年	責任表示	大きさ	頁数	注記
km-A	アルバム					アルバム類は個人情報
km-A 1	Albums	[戦前?]	[川崎操]	19×27cm	22枚(44面)	
km-A 2	Photographs	昭和30年10月22日～	[川崎操]	26cm	5枚(10面)	
km-A 3	川崎関係諸写真	1956年10月9日～	[川崎操]	30cm	20枚(40面)	
km-A 4	川崎関係諸写真	昭和37年11月8日～	[川崎操]	30cm	30枚(60面)	太田為三郎の写真あり
km-B	スクラップブック					
km-B 1	Scrap Book	大正15年9月3日～	[川崎操]	30cm	厚さ5cm	
km-B 2	Scrap Book II	昭和32年2月16日～	[川崎操]	30cm	厚さ5cm	
km-B 3	蔵書印蔵書票		[川崎操]	26cm	厚さ1cm	ノートブック貼付、川崎操自画自彫自刷2枚あり
km-C	自筆原稿					
km-C 1	一橋生活愚伝録	[昭和48年3月]	[川崎操]	22×31cm	厚さ2cm	原稿用紙
km-C 2	上海ゆき(一橋生活愚伝録の内)		[川崎操]	22×31cm	厚さ2cm	原稿用紙
km-C 3	文部省図書館教習所第二期生(大正12年3月卒)銘々小伝:川崎の覚書		[川崎操]	27cm	16枚	一橋大学罫紙
km-C 4	「僕は本である」		[川崎操]	25cm	7丁	東京商科大学罫紙
km-C 5	本邦著述家著作目録書誌(稿)		川崎操編	30cm	25頁	
km-C 6	本邦著述家著作目録索引稿; 明治以降、社会科学関係者の部		[川崎操]	26cm	厚さ2cm	一橋大学罫紙
km-C 7	本邦特殊史書目と解題(稿)		[川崎操]	26cm	厚さ4cm	原稿用紙
km-C 8	改訂増補書架考: 書架の変遷と近代書架、芸艸会雑誌・図書館研究掲載論文目録: と当時の若干の回想		川崎操著	22×31cm	45,30枚	原稿用紙
km-C 9	東京帝国大学セツルメント労働図書館を觀る、国立の湿気と健康、熱海ゆき		川崎操著	22cm	14,19,20枚	原稿用紙、「書架考」挿絵写真15図あり
km-C 10	商法講習所の開設とその周囲; 蔭の人々		川崎操	22×31cm	36,4枚	
km-C 10A	商法講習所の開設とその周囲; 蔭の人々		川崎操	22×31cm	36,4枚	電子複製物、附:「大学ニュース」1975年5月(「本学の創立記念日について」)あり
km-C 11	川崎、本学に関係の原稿控		川崎操	27cm	厚さ2cm	「菅礼之助氏著作文献並関係文献目録」他
km-C 12	参考事項「書き抜き」帖		川崎操	26cm	厚さ1cm	東京商科大学罫紙
km-C 13	[参考事項「書き写し」帖]		川崎操	26cm	厚さ2cm	東京商科大学罫紙
km-C 14	読書索引		[川崎操]	23cm	200頁	川崎略歴、備忘録[著作一覧]
km-C 14-1	昭和六年以後[著作一覧]		川崎操	21×30cm	2枚	
km-C 14-2	川崎略歴控		川崎操	26cm	3枚	
km-C 15	旧稿ファイル				1ファイル	以下のものがファイルの中にある
15-1	功績調書	昭和44年10月31日提出	川崎操	26cm	7枚	(稿) 叙勲訪賞授与候補者名簿作成について
15-1	川崎操著作目録		[川崎操]	26cm	7枚	一橋大学罫紙
15-2	教育雑誌、文部省雑誌、の記事抜き		[川崎操]	26cm	5枚	一橋大学罫紙
15-3	『東京学国語学校が東京商業学校へ合併された当時の学生の動きのーコマ』		[川崎操]	26cm	9枚	一橋大学罫紙、中村光夫著「二葉亭四迷伝」から
15-4	書物の健康: 本は生きもの		[川崎操]	26cm	10枚	一橋大学罫紙
15-5	日本美術史・絵画史・関係文献目録	昭和45年2月5日	川崎操	22×31cm	9枚	原稿用紙
15-6	1. 近代的な書架以前のこと		[川崎操]	26cm	6枚	一橋大学罫紙、「原稿改訂中」
15-7	昭和39年度ガイダンス原稿	昭和39年4月13日	[川崎操]	26cm	15枚	一橋大学罫紙、附: ガイダンス日程、東京外国語学校系図、雑誌部門別発行点数、
15-8	「書架のしおり」原稿に対する往復文書	昭和34年6月4日～9月29日	高橋健三		5通	(日本ファイリング)
15-9	原稿依頼ノ川崎操宛	昭和34年2月14日	村松武司	21×30cm	1枚	(「BOOKS」編集部)
15-9	ハガキノ川崎操宛	昭和34年3月3日	村松武司	15cm	1枚	(BOOKSの会)
15-9	原稿料通知ノ川崎操宛	昭和34年4月7日	「BOOKS」編集部	15×18cm	1枚	書留
15-9	封書ノ川崎操宛	昭和34年4月10日	金子弘	21cm	3枚	(丸善)
15-9	ハガキノ川崎操宛	昭和34年4月22日	山崎玲、孝子	15cm	1枚	
15-10	[結婚披露宴挨拶原稿]		[川崎操]	26cm	4枚	一橋大学罫紙
15-10	[結婚披露宴挨拶原稿]		[川崎操]	26cm	4枚	一橋大学罫紙、「佐藤君」
15-11	市島春城「図書館生活二十五快」		[川崎操]	20×26cm	3枚	堀田時計店罫紙
15-12	「ほんのお守りで四十年」		川崎操	26cm	29枚	一橋大学罫紙

15-13	図書館拡大における講演原稿	昭和41年6月17日	〔川崎操〕	26cm	10枚	一橋大学罫紙
15-14	職員研修会における講義資料	昭和41年11月18日	〔川崎操〕	26×36cm	26枚	一橋大学罫紙
15-15	書架考増訂原稿:史料大観、台記、記録部		〔川崎操〕	26cm	3枚	本の会原稿用紙
15-16	大日本人辞書:藤原頼長		〔川崎操〕	26cm	6枚+2枚	東京商科大学罫紙、附:東京堂月報、S41年5月号生方敏郎記事抜書き
15-17	「頼長の文倉」		〔川崎操〕	26cm	8枚	東京商科大学罫紙
15-18	徳川中期の刊書禁止:「翁草」より		〔川崎操〕	17cm	2枚	短冊様
15-19	神田一ツ橋		〔川崎操〕	11×17cm	13枚	カード様文献メモ
15-20	小学地誌波号[他]		〔川崎操〕	17cm	9枚	短冊様文献メモ
15-21	うたひの姿:全五巻:内容曲目		梅若万三郎	12×16cm	1枚	ちらし
15-22	図書館用語[等]参考書及分担		〔川崎操〕	17cm	6枚	カード様分担メモ
15-23	図書[等の]語義		〔川崎操〕	20×27cm	10枚	原稿用紙
15-24	うんこう:薬用植物		〔川崎操?〕	24cm	3枚	滝野川尋常高等小学校綴方部用紙
15-25	まんじゅしゃげ		〔川崎操?〕	24cm	2枚	本の会原稿用紙
15-26	芸州会は大正10年...		〔川崎操〕	26cm	2枚	書庫調査案内紙の裏に鉛筆書き
15-26	[大学図書館、専門学校図書館学生数蔵書経費等一覧]	昭和22年度末現在	〔川崎操〕	30×42cm	8枚	①国立大学官立大学、②公立大学、③私立大学、④高等学校、⑤官立専門学校、⑥公立専門学校、⑦師範学校、⑧私立専門学校
km-D	刊本					
km-D 1	原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会):通巻第4輯	昭和9年8月~昭和13年12月	川崎操	27cm	10,10頁	「商大蔵書最近の部第二号、昭和九年八月至同十三年十二月受入中ヨリ」、謄写版
km-D 2	芸州会パンフレット:第2冊	昭和8年7月	芸州会	22cm	28頁	「書架考・書架と湿気」
km-D 3	東京商科大学六十六教授文献集覧(内容見本)		〔川崎操〕	22cm	2つ折り2枚	
km-D 4	南方文献目録:附海南島(邦書篇)		川崎操、尾崎賢治編	21cm	140頁	「東京商科大学東亜経済研究所特殊文献目録」第1輯
km-D 5	書物の周囲:第1巻第2号	昭和9年7月25日	くにたち本の会	23cm	52,16頁	「原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)」巻末16頁
km-D 5	書物の周囲:第2年第1号	昭和10年5月	くにたち本の会	23cm	42,28頁	「一ツ橋の今昔」p.23-30、「原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第二輯」巻末14頁
km-D 5A	書物の周囲:第2年第1号	昭和10年5月	くにたち本の会	23cm	42,28頁	「一ツ橋の今昔」p.23-30、「原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第二輯」巻末14頁
km-D 5	書物の周囲:第3年第1・2号	昭和11年12月	くにたち本の会	23cm	40,26頁	「図書館に於ける電燈照明に就いて」p.29-34、「原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第三輯」
km-D 5A	書物の周囲:第3年第1・2号	昭和11年12月	くにたち本の会	23cm	40,26頁	「図書館に於ける電燈照明に就いて」p.29-34、「原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第三輯」
km-D 5-1	原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)		川崎操	23cm	16頁	『書物の周囲』第1巻第2号 抜刷
km-D 5-1A	原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)		川崎操	23cm	16頁	『書物の周囲』第1巻第2号 抜刷
km-D 5-1	原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第二輯		川崎操	23cm	28頁	『書物の周囲』第2年第1号 抜刷
km-D 5-1A	原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第二輯		川崎操	23cm	28頁	『書物の周囲』第2年第1号 抜刷
km-D 5-1	原著対照:本邦翻訳書目録(法律・経済・社会)第三輯		川崎操	23cm	26頁	『書物の周囲』第3年第1/2号 抜刷
km-D 6	翻訳書原著者漢字名並原綴対照一覧:〔一〕(二)、第二輯	昭和13年4-5月	川崎操、天野敬太郎	23cm	7,6頁	『東京古書籍商組合月報』昭和13年4月号-5月号
km-D 6A	翻訳書原著者漢字名並原綴対照一覧:〔一〕(二)	昭和13年4月	川崎操	23cm	7頁	『東京古書籍商組合月報』昭和13年4月号、2部あり
km-D 7	図書館雑誌:第253号(第35年1号)、第287号(第37年10号)	昭和16年1月、昭和18年10月	日本図書館協会	26cm	2冊(合冊)	「頼長の文倉」(235号p.14-15)、「波多野先輩を失う」(287号p.25-26)
km-D 8	本邦著述家著作目録索引稿:明治以降社会科学関係者の部		川崎操編	25cm	71頁	「一橋大学附属図書館参考資料」1
km-D 8A	本邦著述家著作目録索引稿:明治以降社会科学関係者の部		川崎操編	25cm	71頁	「一橋大学附属図書館参考資料」1
km-D 9	図書館研究:復刊第2号	1955年6月	図書館職員養成所図書館学会	21cm	90頁	「書架の変遷と近代書架」p.52-69
km-D 9	図書館研究:復刊第3号	1957年9月	図書館職員養成所図書館学会	21cm	55頁	「芸州会雑誌・図書館研究掲載論文目録」p.43-52
km-D 9	図書館研究:復刊第4号	1959年6月	図書館職員養成所図書館学会	21cm	83頁	「芸州会雑誌・図書館研究掲載論文目録-補遺」p.77
km-D 9-1	書架の変遷と近代書架		川崎操	21cm	52-69頁	『図書館研究』復刊第2号抜刷

km-D	9-1	芸艸会雑誌・図書館研究掲載論文目録 —と当時の若干の回想—		川崎操	21cm	43-52, 77-77頁	『図書館研究』復刊第3号抜刷、 附：補遺
km-D	9-1A	芸艸会雑誌・図書館研究掲載論文目録 —と当時の若干の回想—		川崎操	21cm	43-52, 77-77頁	『図書館研究』復刊第3号抜刷、 附：補遺
km-D	10	如水会会報：no.431	昭和41年3月	如水会	21cm	84頁	「マーキュリー」校章使用の起源 p.2-3
km-D	10	如水会会報：no.480	1970年4月	如水会	21cm	120頁	「商法講習所」を最初に紹介した 新聞記事と最初の生徒募集広告 案」p.38-40
km-D	10	如水会会報：no.487	1970年11月	如水会	21cm	116頁	「忘れられた最初のベルギー国 人お雇い教師」p.38-40
km-D	10A	如水会会報：no.487	1970年11月	如水会	21cm	116頁	「忘れられた最初のベルギー国 人お雇い教師」p.38-40
km-D	10	如水会会報：no.491	1971年3月	如水会	21cm	84頁	「日本の土に眠る三人の外国人 教師」p.16-18
km-D	10	如水会会報：no.577	1978年5月	如水会	21cm	92頁	川崎操に勲四等瑞宝章が追贈さ れた(p.28)
km-D	11	農村工業：第8巻4号、第9巻4号、第10巻4 号	昭和16年4月- 昭和18年4月	農村工業協会	21cm	3冊(合冊)	「国土計画に関する文献目録」 [第1輯]—第3輯
km-D	12	自稿掲載誌				3種(1ファイル)	以下3種を1ファイルに収納
		経理資料：第14巻1号	昭和18年2月	文部大臣官房 会計課	26cm	64頁	「吾輩は本である(二)」p.26-29
		図書館職員養成所ニュース：No.5	昭和34年4月	司書教育研究 会	27cm	2つ折り1枚	「超「縁下力持」」p.4-4]
		Books：No.108	1959年4月	Booksの会	22cm	48頁	「EX-LIBRIS」p.8-9、3部あり
km-D	12-1A	Books：No.108	1959年4月	Booksの会	22cm	48頁	「EX-LIBRIS」p.8-9
km-D	13	雑稿四種				5冊(合冊)	以下5冊を合冊製本
		文闘：第1巻2号	昭和3年1月	文闘会	22cm	29頁	「ひとみ(川崎み佐夫)」p.14-16
		美術往来：第2巻8号	昭和10年7月	資文堂	22cm	144頁	「蔵書票芸術」p.22-23
		美術往来：第4年3号	昭和12年4月	資文堂	22cm	130頁	「書物の虫」p.19-22
		東京古書籍商組合月報	昭和13年4月	全国古書籍商 連盟	22cm	32頁	「翻訳書原著漢字名並原綴対照 一覧」
		東京古書籍商組合月報	昭和13年5月	全国古書籍商 連盟	22cm	24頁	「翻訳書原著漢字名並原綴対照 一覧(二)」
km-D	14	書架のしおり：第2集	昭和34年9月	日本ファイリン グ	22cm	66頁	「書架と私」p.46-51
km-D	14	書架のしおり：第3集	昭和36年12月	日本ファイリン グ	22cm	75頁	「書架と私」p.61-66
km-D	15	西洋学家訳述目録：全	大正15年4月	穂亭主人著	8×18cm	39丁	松雲堂発行。初版嘉永5年12月 刊
km-D	16	現代日本限定版書目	昭和12年春	[大竹健二]	23cm	40頁	兵庫県垂水町、五行山荘発行、 限定300部の内7番冊
km-D	17	ベルギー・アンヴェルス商科大学と日本	昭和49年3月	猪谷善一	21cm	871-897頁	『早稲田商学』第241号抜刷
km-D	18	マーキュリー、及帽章校旗に関する論考 (田崎仁義著「素行先生と乃木大将」より)		田崎仁義	21cm	96-107頁	田崎仁義著『素行先生と乃木大 将』の一部コピー
km-D	19	校章考：東大・一橋大について下商のは 日本で三番目		上田強	19cm	13頁	以下の書簡が付随している
		書簡／川崎操宛	昭和50年10月30日	菱沢繁之	23cm	2枚	
		書簡／川崎操宛	[昭和51年]1月24日	菱沢繁之	23cm	2枚	
		一橋大学磯野研究館内一橋学園史資料 調査室川崎操氏調べ		[菱沢繁之]	19×25cm	3枚	
		書簡／菱沢繁之宛	[昭和51年]1月15日	上田強	25cm	5枚	
		書簡／川崎操宛	昭和51年3月29日	菱沢繁之	19×25cm	1枚	
		出状(案)／上田強宛		菱沢繁之	19×25cm	6枚	
		書簡／上田強宛	[昭和51年2月21日]	菱沢繁之	23cm	7枚	
		一橋大学磯野研究館内一橋学園史資料 調査室川崎操氏調べ		[菱沢繁之]	19×25cm	7枚	
km-D	20	如水会会報中必要記事抜粋	自昭和36年至同38年	如水会	21cm	厚さ2cm	製本巻頭に「如水会会報必要記 事索引」(自筆12枚)あり
km-D	21	図書館雑誌、美術雑誌寄稿誌、文部省経 理資料				厚さ5cm	箱の中に以下の資料あり
	21-1	吾輩は「本」である：(一)～(五)	昭和17年-昭和18年	川崎操	25cm	5部(合冊)	「経理資料」13巻6号—14巻5号
	21-2	書架のしおり：第2集	昭和34年9月	日本ファイリン グ	22cm	66頁	「書架と私」p.46-51
	21-3	如水会会報：no.491	1971年3月	如水会	21cm	84頁	「日本の土に眠る三人の外国人 教師」p.16-18
	21-4	一ツ橋の今昔	昭和10年5月	川崎操	22cm	23-30頁	『書物の周囲』第2年1号抜刷
	21-5	書物の虫	昭和12年3月25日	川崎操	21cm	19-23頁	『美術往来』第4年3号中より複写
	21-6	書庫と湿気	昭和8年7月	川崎操	21cm	[11]—28頁	『芸艸会パンフレット』第2冊中より 複写、2部あり
	21-7	書架の変遷と近代書架	昭和30年6月	川崎操	21cm	52-68頁	『図書館研究』復刊第2号中より 複写
	21-8	書架と私	昭和34年9月	川崎操	21cm	46-51頁	『書架のしおり』第2集中より複写

21-9	[文部省出仕市川氏「書籍院設立」建白大意]	明治5年6月	郵便報知新聞	21cm	2つ折り1枚	『郵便報知新聞』第1号中より複写
21-10	[元営繕会議所頭取三井八郎工門外五名より東京府へ建白写]	明治5年11月	郵便報知新聞	21cm	2つ折り3枚	『郵便報知新聞』第29号中より複写
21-11	[外国人との婚姻許可とその條規]	明治6年3月	郵便報知新聞	21cm	2つ折り2枚	『郵便報知新聞』第45号中より複写
21-12	[諸外国への留学生: 国別人員と学費]	明治6年4月	郵便報知新聞	21cm	2つ折り1枚	『郵便報知新聞』第47号中より複写
21-13	[森有礼代理公使が外務省へ送った「米国学校規則要覧」]	明治6年5月	郵便報知新聞	21cm	2つ折り4枚	『郵便報知新聞』第51号中より複写
21-14	幕末娑婆談:(一)-(二)	明治39年5月、 明治39年11月	村林健蔵	21cm	2つ折り7枚	『一橋会雑誌』第2号、第6号中より複写
21-15	蕃書調所と講武所の淵源	昭和10年9月	中村薫	21cm	160-169頁	『神田文化史』中より複写
21-16	官学・江戸藩校・私塾	昭和12年3月	[京橋区]	21cm	820-827頁	『京橋区史』上巻中より複写
21-17	高等商業学校の設立	昭和31年1月	文部省	21cm	28-31頁	『産業教育七十年史』中より複写
21-18	実業諸学校の発足		国立教育研究所	21cm	844-847頁	『日本近代教育百年史』中より複写
km-E	書簡類					以下個人情報
km-E	1 川崎用品入箱					「大学より持ち帰った在職中の用品入」 一橋大学野紙
1-1	太田為三郎先生著作目録と関係文献		[川崎操]	26cm	7枚	
1-2	封書ノ川崎操宛	12月19日	稲村徹元	23cm	3枚	
1-3	[履歴書]		太田為三郎	26cm	4枚	複写物
1-4	当館目録編成ト同時ニ書庫内ヲ整頓スヘキ理由		[太田為三郎?]	25cm	5丁	東京商科大学野紙
1-4	当館目録編成ト同時ニ書庫内ヲ整頓スヘキ理由		[太田為三郎?]	25cm	5丁	東京商科大学野紙、電子複写物
1-5	田中帝國図書館長写真	大正10年頃	田中稲城	13×9cm	1枚	台紙張
1-6	西村竹間翁写真	大正2年	西村竹間	15×11cm	1枚	[翁六十四歳ノ時ノモノ]台紙張
1-7	封書ノ藤澤勇次宛	大正11年7月20日	福田徳三	24cm	2枚	朝鮮ホテルにて
1-8	封書ノ川崎操宛	昭和18年2月2日	吹田順助	26cm	2枚	特殊文庫の図書交換の問題
1-8	封書ノ川崎操宛	昭和18年2月9日	吹田順助	26cm	2枚	福井予科事務長
1-8	ハガキノ川崎操宛	昭和30年12月20日 消印	吹田順助	14cm	1枚	求人問い合わせ
1-8	ハガキノ川崎操宛	昭和30年12月27日 消印	吹田順助	14cm	1枚	
1-9	封書ノ川崎操宛	昭和11年6月22日 消印	高垣寅次郎	26cm	2枚	
1-9	封書ノ川崎操宛	昭和29年7月16日 消印	高垣寅次郎	26cm	2枚	図書の所在調査
1-9	ハガキノ川崎操宛	昭和29年7月29日 消印	高垣寅次郎	14cm	1枚	図書の所在調査
1-9	ハガキノ川崎操宛	昭和30年12月2日 消印	高垣寅次郎	14cm	1枚	図書の所在調査
1-10	封書ノ川崎操宛	昭和31年2月27日 消印	根岸信	26cm	4枚	中国の商人ギルド
1-10	封書ノ川崎操宛	昭和37年2月13日 消印	根岸信	26cm	3枚	図書の返却督促
1-10	封書ノ増田学長宛	昭和41年1月20日 消印	根岸信	巻紙	1枚	学位論文 中村氏の「マイネッケの研究」
1-11	封書ノ川崎操宛	昭和41年4月15日受	高橋泰蔵	26cm	5枚	感謝状
1-12	封書ノ川崎操宛	昭和18年1月24日受	山城章	26cm	2枚	神戸の入江氏への言づけ
1-13	封書ノ川崎操宛	昭和33年1月14日受	水田洋	26cm	2枚	マイクロフィルムの利用
1-14	ハガキノ川崎操宛	昭和27年4月1日	幸田成友	14cm	1枚	[日本国見在書目録]
1-14	ハガキノ川崎操宛	昭和27年4月20日	幸田成友	14cm	1枚	[日本国見在書目録]
1-15	ハガキノ川崎操宛	昭和11年12月19日 消印	大塚金之助	14cm	1枚	目録の礼状
1-16	封書ノ川崎操宛	昭和10年9月2日消印	波多野賢一	巻紙	2枚	来駕要請(東京市図書館)
1-16	封書ノ川崎操宛	昭和16年7月1日消印	波多野賢一	22cm	2枚	理事選挙
1-16	封書ノ川崎操宛	昭和17年8月31日 消印	波多野賢一	22cm	3枚	三浦新七名譽会員推薦調書依頼
1-16	ハガキノ川崎操宛	昭和16年7月15日 消印	波多野賢一	14cm	1枚	協会理事選
1-17	封書ノ川崎操宛	昭和10年5月30日 消印	内藤赳夫	22cm	3枚	目録礼状と目録談義(大原社研)
1-17	封書ノ川崎操宛	昭和11年12月19日 消印	内藤赳夫	22cm	3枚	目録礼状と引越し状況
1-17	封書ノ川崎操宛	昭和16年12月24日 消印	内藤赳夫	22cm	3枚	図書借用の礼状
1-17	ハガキノくになち本の会宛	昭和10年4月15日 消印	内藤赳夫	14cm	1枚	[書物の周囲]礼状
1-17	ハガキノくになち本の会編集部宛	昭和10年5月23日 消印	内藤赳夫	14cm	1枚	[書物の周囲]礼状
1-18	封書ノ川崎操宛	昭和11年2月13日 消印	竹林熊彦	21cm	3枚	[書物の周囲]礼状(同志社大学図書館)
1-18	封書ノ川崎操宛	昭和11年5月24日 消印	竹林熊彦	21cm	2枚	旅程報告

	1-18	封書／川崎操宛	昭和32年5月10日 消印	竹林熊彦	22×30cm	1枚	近況報告
	1-19	封書／川崎操宛	昭和10年5月12日	堀経夫	21cm	1枚	[本邦翻訳書目]の礼状(大阪商科大学)
	1-19	封書／川崎操宛	昭和11年2月28日	堀経夫	25cm	2枚	[初学経済論]の原本
	1-19	封書／川崎操宛	昭和25年12月25日	堀経夫	25cm	2枚	「経済考微第1巻」のことなど
	1-20	封書／川崎操宛	昭和10年2月6日	林靖一	25cm	2枚	「書物の周囲」礼状(朝鮮鉄道図書館)
	1-20	封書／川崎操宛	昭和11年12月25日 消印	林靖一	25cm	10枚	防虫、防湿について
	1-20	封書／川崎操宛	昭和12年3月23日 消印	林靖一	18×25cm	2枚	湿気問題について
	1-21	封書／川崎操宛	昭和11年7月12日 消印	田中敬	21cm	2枚	「図書館学概論」(大阪帝国大学図書館)
	1-22	封書／川崎操宛	昭和16年12月20日 消印	深見義一	21cm	2枚	「国土計画に関する文献目録」
	1-23	封書／川崎操宛	昭和11年7月23日 消印	小見山寿海	21cm	3枚	「書物の周囲」(書誌学者)
	1-27	ハガキ／川崎操宛	昭和?年8月?日 消印	小見山寿海	14cm	1枚	「書物の周囲」礼状
	1-24	封書／川崎操宛	昭和17年7月10日 消印	久留間敏造	21cm	1枚	来訪礼状(大原社研)
	1-25	ハガキ／川崎操宛	昭和11年10月19日 消印	森銃三	14cm	1枚	「日本国見在書目録」(書誌学者)
	1-26	ハガキ／川崎操宛	昭和11年3月16日 消印	湯浅守平	14cm	1枚	「現今の資本」
	1-26	ハガキ／川崎操宛	昭和11年?月8日 消印	湯浅守平	14cm	1枚	「マルクス思想叢書」
	1-27	ハガキ／川崎操宛	昭和10年9月22日 消印	黒川三代治	14cm	1枚	「本邦翻訳書目録」礼状(北海道帝国大学)
	1-28	ハガキ／川崎操宛	昭和30年8月22日 消印	少雨叟 (斉藤昌三)	14cm	1枚	「続達人」礼状
	1-29	ハガキ／川崎操宛	昭和33年1月12日 消印	大野実雄	14cm	1枚	年賀状(早稲田大学)
	1-30	封書／川崎操宛	昭和12年6月12日 消印	芸艸会一同 (奉天にて)	21cm	1枚	寄せ書き
	1-31	ハガキ／川崎操宛	昭和11年11月7日 消印	叢文閣	14cm	1枚	「貨幣と金融」協同組合論の原綴
	1-32	封書／くになち本の会宛	昭和9年8月6日消印	星野弘四	23cm	1枚	「書物の周囲」礼状(台北帝国大学)
	1-32	封書／くになち本の会宛	昭和10年5月6日消印	星野弘四	23cm	1枚	「書物の周囲」礼状
	1-33	封書／くになち本の会宛	昭和10年5月25日 消印	浜野知三郎	23cm	1枚	「書物の周囲」礼状(大東文化大学)
	1-34	ハガキ／くになち本の会宛	昭和11年11月29日 消印	鈴木券太郎	14cm	1枚	「書物の周囲」礼状(ジャーナリスト)
	1-34	ハガキ／くになち本の会宛	昭和11年12月17日 消印	鈴木券太郎	14cm	1枚	「書物の周囲」
	1-35	ハガキ／くになち本の会宛	昭和10年4月19日 消印	田中铁二	14cm	1枚	「書物の周囲」(九州帝国大学図書館)
	1-36	ハガキ／くになち本の会宛	昭和10年5月3日	勝家清勝	14cm	1枚	「書物の周囲」(満鉄図書館)
	1-37	ハガキ／くになち本の会宛	昭和11年12月15日 消印	岡野他家夫	14cm	1枚	「書物の周囲」(東京帝国図書館)
	1-38	ハガキ／くになち本の会常務宛	昭和11年6月15日 消印	若林政次	14cm	1枚	「書物の周囲」(若林春和堂)
	1-39	封書／東京商科大学宛	昭和13年12月13日	大阪商科大学	23cm	1枚	[東京商科大学六十六教授文獻集覧]寄贈依頼
	1-40	封書／東京商科大学図書館長宛	昭和11年12月24日 消印	高木暢太郎	23cm	1枚	湿気の問合せ、回答文案2枚あり(清水組)
	1-41	振替貯金局待払内訳票(4枚); 払出通知票(7枚); [本の会会計メモ](2枚)	昭和12年9月6日～ 昭和14年9月25日	くになち本の会		1袋	
	1-42	小松君見舞金積立図書館有志割当表			26cm	1枚	東京商科大学野紙
km-E	2	川崎の辞令類				1袋	「人事異動通知所在中」、以下個人情報
	2-1	[川崎辞令]				1袋	バラで1袋
	2-2	[川崎辞令]				1封筒	東京商科大学封筒内
	2-3	[川崎辞令]				1封筒	東京産業大学封筒内
	2-4	[川崎辞令]				1封筒	一橋大学封筒内
	2-5	[川崎辞令]				1封筒	文部省封筒内
	2-6	学術奨励審議会専門委員の解任について	昭和35年11月27日	文部省大学学術局長	26×36cm	1枚	「文大術第622号」、附:「人事異動通知書」
	2-7	修了証:「図書館学講座」	昭和24年8月31日	東京大学附属図書館、総合研究会	26×37cm	1枚	第30回
	2-7	修了証:「図書館学夏期講習会」	昭和25年7月29日	東京大学附属図書館、総合研究会	26×37cm	1枚	第31回
	2-8	評議員委嘱証	昭和15年11月16日	日本図書館協会	28cm	1枚	書留封筒、附:理事長書簡1枚

2-8	評議員委嘱証	昭和16年6月19日	日本図書館協会	28cm	1枚	封筒、附:理事長書簡1枚
2-9	戸籍抄本送付請求書／鏡野町長宛	昭和36年10月9日	川崎操	26cm	1枚	
2-10	書簡／川崎操宛		父より	26cm	4枚	香川県坂出町「護国タイムス社」 罫紙
2-11	宿舍貸与承認書	昭和27年5月3日	一橋大学長	36cm	1枚	本部26号
2-12	教職適格確認書	昭和24年2月17日	文部大臣	26cm	1枚	第5489号
2-12	中央公職適格審査の適格結果について	昭和25年7月4日	文部省大学学術局学術課学術用語掛	26cm	1枚	附:「確認書」(第180810号)1枚
2-13	歎願書[案]	昭和23年12月日	東京商科大学学務課長	26cm	7枚	東京商科大学罫紙
2-13	歎願書[案]	昭和 年 月	東京商科大学附属図書館	26cm	3枚	東京商科大学罫紙
2-13	歎願書[案]	昭和 年 月	東京商科大学附属図書館	19×26cm	1枚	封書入り、鉛筆による添削

- ¹ 青野伊代児. 故川崎操氏追悼. 図書館雑誌. 1978, 72 卷 5 号, p.238-239.
- ² 川崎操. “本のお守りで四十年”. 一橋大学附属図書館史. 一橋大学, 1975, p.135.
- ³ “小長谷恵吉氏年譜”. 日本国見在書目録解説稿: 附同書目録・同書索引. 小長谷恵吉著. 小宮山書店, 1956, 巻末.
- ⁴ “第四篇: 図書館年表”. 一橋大学附属図書館史. 一橋大学, 1975, p.258.
- ⁵ 川崎操作成の「運動状況年誌」が巻末に掲載されている。

[Report]

Kawasaki Misao; The Legendary head of Hitotsubashi University Library Office

Oba, Takashi.

General Affairs Division, Department of General Affairs, Hitotsubashi University